

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100951		
法人名	医療法人 かわせみ		
事業所名	グループホーム ハタ		
所在地	徳島県 徳島市 八多町 小倉 76番地		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、周囲に桜やみかんの木がたくさんある自然豊かな環境に位置している。天気の良い日には、遊歩道の散歩や野山の散歩を楽しんでいる。母体法人が医療機関であるため、医療との連携を円滑に行っている。  
また、利用者や家族の希望に応じ終末期の支援に取り組んでいる。  
法人全体で、積極的に勉強会や症例検討会を開催したり、資格の取得に向けた取り組みを行い、サービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな野山に囲まれた地にあり、同一法人の医療機関が隣接している。裏山では、春には桜の花見、秋にはみかん狩りと、季節ごとに楽しめるよう整備している。利用者の健康維持や気分転換を図れるよう、毎日の散歩に力を入れている。現在の利用者は少ないが、職員のきめ細やかな配慮によりアットホームで温かい環境の中で生活をしている。医療機関との連携が密であることが、緊急時や重度化した場合において、利用者や家族及び職員の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念の作成、見直しを行い、理念を共有し、実践できるよう努めている。	事業所では、年度はじめに全職員で理念について話し合い原点に立ち返るようにしている。また新しい職員を迎えた際、新人研修で理念について共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設する母体医療機関の行事や地域の祭り、敬老会に参加している。ホーム便りを併設病院の各部署やコミュニティーセンター、理髪店等に配布している。	事業所では、毎日散歩に出掛けたり、敬老会へ参加したりして、地域の人との交流を図っている。また地域の秋祭りの際、巫女の舞や山車の来訪があり、交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、事業所に立ち寄ってもらえるよう声掛けをしている。見学にきて頂いた方に、介護サービス利用等について説明をしたり、その方に適した施設の紹介を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において取り組みの状況を報告し、参加者から意見を聞いている。出来るだけ多くの職員が会議に参加し、改善課題についての意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。また、身体拘束適正化の会議も行っている。	事業所では、2か月に1回、運営推進会議を開催し、民生委員や協議会長、見識者等の参加を得ている。事業所の行事や生活の報告だけでなく、研修や委員会での報告を行い、出された意見を運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所便りや推進会議の議事録を市の担当者及び包括支援センターに届け、利用者の暮らしぶりを伝えている。運営推進会議には毎回、包括支援センターに参加してもらい意見等を出してもらっている。	職員は、市町村に出向き、運営推進会議録や事業所だよりを手渡し、事業所の取り組みや活動内容について報告したり相談したりしている。担当者と密に連絡を取り、事業所への理解を得るように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束 適正化委員会を設置し、運営会議等において指針を確認し、一体的に勉強会を設けている。	事業所は、研修や勉強会で、全職員が身体拘束の弊害について共通の認識を持てるよう努めている。職員は、利用者の気持ちをきめ細かく把握することにより、安全面に配慮して自由に暮らすことができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて、虐待に対する研修会に参加したり、事業所内に於いても、勉強会や、ミーティング等において確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催の権利擁護に関する研修に参加したり、事業所内に於いて話し合いをしている。また、推進会議において包括支援センターより説明を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改定や、利用中の料金改定等、利用料が増加する場合等、一方的な通達にならないよう、重要事項に記載し個別に説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に出される家族からの意見や要望の把握に努めている。また、利用者から出される要望等は、ミーティング等において、個別に検討し申し送りノートに記載し、職員全員で確認している。	事業所では、利用者や家族の意向把握に努めている。職員は、家族との面会時に、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は、職員間で共有して、運営面に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにおいて意見を聞くようにしている。また、毎月理事長出席のもと行われる法人の管理会議では、管理者と職員が話し合った意見や提案を報告し、運営に反映させている。	管理者は、日頃の業務の中で職員の声に耳を傾けたり、ミーティングの機会に職員から意見や提案を聞いたりしている。職員と話しあった医健や提案は、毎月開催される会議において、管理者から理事長に報告し、運営面に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に基づき、労働環境づくりに努めている。また、法人による職員全体のストレスチェックを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士・実務者研修等、事業所外で開催される研修会に、なるべく多くの職員が参加できるよう努めている。また、事業所内においてもスキルアップのための勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国組織のグループホーム協会に加入し、必要な研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で、話しやすい雰囲気づくりを心掛けながら、本人の状態や思いと向き合っている。(笑顔・コミュニケーション等により、本人の不安を取り除く努力をしている。)			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより、次の段階の相談につなげている。(特に金銭に関すること等は、些細なことにも耳を傾けるようにしている)			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返しながら、必要なサービスにつなげるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の年齢を積み重ねた言動に、教えられることが多く、家庭的な雰囲気の中で和やかに生活していただけるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りに日々の暮らしの出来事や、気づきを記載し遠方の家族には郵送している。また、本人、家族の意向を反映したプランを作成している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの所に出かけている(法事・娘宅での食事、外出)散歩時には近隣住民と挨拶を交わす。	事業所では、家族の協力を得て、馴染みの美容院や知人宅へ行くなど、継続的に交流ができるようにしている。また年賀状を出したり、電話での連絡を取り持ったりして、これまでの関係が断ち切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、個別に話を聞きながら個々の状態を把握し、利用者同士の関係がうまくいくよう調整役となって支援している。(食事の際の席・レク・外食時の席等)			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した利用者と行事に参加したり敬老会と一緒にいたりしながら継続的に付き合いが出来るよう心掛けている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人一人の思いを大切にしながらサービスに反映させている。ケアカンファレンスやミーティング等において希望等の検討を行っている。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。日頃のケアを通して表情や行動からも意向を汲み取れるよう、職員同士で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族から情報を得るようにしている。ミーティングにおいて全職員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握し、職員全員で、情報の共有を行っている。また、出来ないことより、出来ることに注目し全体像が把握できるよう努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。また、職員全員で毎月ケアカンファレンスを行い、状態の変化を確認し、一人一人の目標を定めている。	事業所では、本人や家族の意見や希望を聞き取り、関係機関と話しあい、その人らしい暮らしを続ける為の介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分摂取量、排泄状況、身体状況、日々の暮らしの様子、本人の言葉などを、利用者一人一人のケア記録に記載し、全職員で確認している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援を柔軟に支援し、利用者一人一人が満足できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター、民生委員、八多協議会から参加してもらい、情報交換・協力関係を築いている。訪問理、美容・季節の果物狩りや、毎月の外食を楽しみにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に添った掛かりつけ医を受診できるよう支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。毎朝のバイタル測定や、巡回時、変化がみられた場合、マニュアルに従い担当看護師に報告し、適切な医療につなげている。朝、夕法人の申し送りに参加し報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、家族と情報交換しながら速やかに退院支援に結び付けている。また、退院時には、病院の担当職員とケアカンファレンスを行い、情報を提供してもらっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について家族や主治医と話し合い、支援方法の確認を行っている。		事業所では、入居時に重度化した場合や終末期のあり方について、利用者や家族と話しあっている。状態の変化があれば、そのつど連絡を取り、意向を確認している。また、医師との連携を十分に図ることができており、利用者や家族、職員が安心できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や話し合いを繰り返し行っている。マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、併設の医療機関とともに避難訓練や消火器の使用方法等の訓練を行っている。事業所独自の通報訓練、利用者の避難訓練を行っている。地域の連絡網を作成し、協力体制を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時の、ノック、声掛けを徹底している。特に失禁時など、誇りやプライバシーを損ねる対応をしないよう言動に配慮し支援している。	事業所では、利用者のその人らしい生き方を尊重していくことを目指している。利用者に声をかける際は、名字で呼ぶようにしており、特に排泄介助の際にはさり気なく対応できるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたことを押し付けるのではなく、利用者の状態に合わせて本人が自己決定できるよう支援している。また、全ての利用者の意向に合わせるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、行事予定等にこだわらず、希望に添った対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人の生活習慣に合わせて支援している。毎朝、全員に蒸しタオルを配り顔を拭いてもらったり、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯やおかずの盛り付けの際は、利用者により量を決めてもらったりしている。利用者と職員は同じ食卓で和やかに食事をしている。利用者一人一人に出来ることをしてもらっている。	食事は、同一法人の運営する併設の他サービス事業所の厨房で調理したものを運びこみ、配膳や盛り付けをしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事しており、下膳やテーブル拭き、食器洗いなどを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を把握し記録している。お茶の時間を設けるなど、利用者の好みに合わせて水分摂取できるようにしている。食事は母体医療機関の管理栄養士が作る献立にもとづいて調理した食事を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後、洗面所に行ってもらっている。自分で出来る方は声掛けや見守りを行い、困難な方は歯磨き、義歯洗浄の介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけない配慮を心掛けている。トイレでの排泄を大切にしながら、本人の状態に合わせて、ポータブルトイレ・紙パンツ等を使用している。失敗した場合も、周囲に気づかれないよう配慮をしながら自室で対応している。	事業所では、利用者がトイレで排泄することを大切にしている。職員は、利用者一人ひとりの自尊心に配慮して、さり気ない声かけによるトイレへの誘導を心がけている。排泄の失敗の際も、羞恥心や不安を軽減できるよう臨機応変に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に付いてくる牛乳を飲んでもらうよう声掛けをしている。午前・午後の体操への参加、水分補給の徹底、野菜嫌いの方に食事についてくる野菜摂取を勧める等、個別の支援を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて、入浴時間や順番を決めている。また仲の良い利用者同士の入浴希望や入浴剤を入れて入浴を楽しむ等の支援を行っている。	事業所では、利用者が週に3回入浴できるよう支援している。利用者の希望に合わせて、入浴時間や順番を変更したり、同性介助に配慮したりして、柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の電気の明るさを本人の希望に合わせてたり、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を記録し、全員が把握できるようにしている。また、誤薬を防ぐため、朝・昼・夕・就寝前薬の薬袋に色塗りをしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日のプレゼントを渡したり、司会をお願いしながら力を発揮してもらっている。外出・外食・地域の行事への参加などの楽しみごとは、利用者と一緒に相談しながら行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	建物周辺や近隣・外気浴や散歩など、毎日外出できる機会を作っている。また、毎月の買い物・外食などの外出支援も行っている	事業所では、天候に合わせて、毎日遊歩道や裏山へ散歩に出かけている。利用者一人ひとりの体調や気持ちに合わせて散歩を楽しめるよう調整している。月1回タクシーを利用して外食や買い物の外出支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かり事業所が管理している一方で、外食や買い物の際など、自分で支払できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状をだす支援を欠かさず行っている。利用者の希望に応じて日常的に電話を掛けたり手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にソファや長椅子を設置し、利用者が寛げるようにしている。また、空き部屋を利用し、カラオケルームを設け憩いの場としている。	共用空間は清潔に保たれており、季節の生花を飾るなど、利用者がゆったり過ごすことができるよう工夫されている。利用者同士がリビングで一緒に過ごしたり、個々に寛いだりと、居心地よい空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人の気配が感じられる空間の中で、一人用の椅子やソファを準備し、寛げるよう支援、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や家具、写真、手作りカレンダーなどを持ち込み、居心地のよい居室作りを工夫している。	事業所では、居室に使い慣れた家具を持ち込んでもらっており、一人ひとりの暮らしやすさに配慮している。家族写真を飾ったり、部屋でゆっくり趣味の手芸を楽しんだりすることができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態を把握し、状況に合わせた環境整備に努めている。毎月のケアカンファレンス等において利用者の状態確認を行い、変化が生じている場合は、不安を取り除くよう努めている。		